

4. 地域における教育改革とPTA

－民主的な学校づくり・地域との共同－

◎共同研究者、共同討議者紹介

共同研究者：菅野 宗二さん（元高教組組合員）

◎今年の討議の柱

- ① 子どもたち、保護者、教職員、学校の現状はどうなっているか。実状を出し合いながら、「職場要求書づくり」についても交流する。
- ② ゆきとどいた教育を保障する民主的な学校づくりのための実践例を報告し合う。
- ③ 特色有るPTA活動について交流しあう。
- ④ 高校再編計画と新しい学校づくりへのとりくみについて。
- ⑤ 超勤・多忙化解消の実現に向けたとりくみについて（観点別評価や校務支援システムの対応）

◎分科会アピール

次期学習指導要領改訂の最も主要な指針を読み解くと、(1) 社会に開かれた教育課程、(2) 資質・能力を中心とする教育課程、(3) カリキュラム・マネジメントの確立、(4) 「主体的・対話的で深い学び」の推進などが列挙できる。本分科会としては、これらの主要改訂指針を文科省から投げかけられた諸課題として真正面から受け止めながら、岩手の実状に置き換えたときにどのような変化が想定されるか、可能な限りの学びの場としたい。

特に、高校再編の動向（校舎制の実施）や学校を活性化させるPTA活動、本格実施となった校務支援システムなどを語り合う場とする。将来の担い手である子どもたちのための学校づくり、子どもたちが主体である学校づくりを進めていくための先進的で建設的な学びが多い分科会となるよう努めることとする。

◎推進委員長

岩本 陽樹（大東高校）

7. 情報リテラシー教育・図書館教育

◎共同研究者、共同討議者紹介

共同研究者：上田 高さん（元高教組組合員）

◎推進委員長

川崎 博子（盛岡南高校）

8. インクルーシブ教育

◎今年の討議の柱

- ① 困難を抱える子どもたちの理解と、情報の共有、支援員との連携について
- ② 特別支援教育に対する教職員の意識のあり方
- ③ 中学校と高校の連携のあり方
- ④ 特別支援学校と高校の連携について

◎分科会アピール

インクルーシブな学校づくりをすすめるためには何が必要なのか、本音で語り、困っていることや悩みを気軽に語り合える分科会です。討論の中で、日頃の実践のヒントをつかんでいただければ幸いです。

◎推進委員長

藤澤 大（久慈東高校）

9. 防災・減災教育－震災を忘れない分科会

◎今年の討議の柱

- ① 震災から6年半、子どもたちや教職員の現状を共有する。
- ② 継続、伝えるとりくみを考える。
- ③ 防災・減災教育をどのようにすすめていくかについて考える。
- ④ 地域社会の再構築、子どもたちの居場所作りを考える。

◎分科会アピール

東日本大震災から6年半。大規模な盛土工事も完了し、商業施設や公共施設の建設がすすみかつての活気を取り戻しつつあります。一方、災害公営住宅の建設・入居もすすめられる中、昔なじみのコミュニティーが失われ、高齢者の居場所や孤独死が問題になってきています。また、地元での再建をあきらめて内陸に移住する人、資材高騰、人手不足の影響で地元での住宅再建に苦悩する人など、地域の暮らしは未だに先が見えません。人口移動による雇用の減少、学校の統廃合がすすみ、地域の衰退が危惧されます。沿岸、内陸を問わず、子どもたちが抱える震災の影響も継続しています。被災地域と内陸との温度差、震災の風化も課題となっています。

昨年の4月の熊本地震、8月末の台風10号の土砂災害。今年の大分、福岡県集中豪雨による